スーダン　フロントライン母子保健強化プロジェクトフェーズ2
技術協力プロジェクト（2011年9月～2014年9月）

スーダンでは、2013年に妊産婦死亡率が10万人の出生に対して360人、1歳未満児死亡率が1,000人の出生に対して51人など、世界の平均（前者が210人、後者が34人）と比べて大きく上回っています。その原因として地方の妊産婦や母親、新生児などが利用できる医療施設やサービスが限られていること、必要な保健医療を担う人材が不足していることなどが挙げられ、母子保健の改善が急務となっています※1。

このプロジェクトは、スーダンにおいて、より多くの女性が妊娠・出産に関する質の高い保健医療サービスを受けることができるようになることを目標に掲げています。そして、スーダン全域における村落助産師（VMW※2）の能力向上と、セナール州における妊産婦や新生児の健康を改善するための包括的なモデルの確立に向けた支援を実施しています。

この取組により、セナール州においては、2011年から2013年にかけて、医療施設における産前検診受診数が、10,333件から14,376件に、分娩数が9,421件から14,227件に、VMWによる産前検診数が1か月当たり平均7.9件から11.94件に増加しました。

また、連邦保健省や州保健省の行政能力が強化されるとともに、VMWを支援する制度設計も進みました。それは数字にも表れ、全国のVMWのうち政府に雇用される割合は、2010年の3%から2012年の23%へ増加しました。保健人材の育成に関しても、このプロジェクト（フェーズ2）および前身のフェーズ1を通して、163名の現任研修講師・準講師が養成され、全国の21%に相当する2,735名のVMWが現任研修を受講し、能力向上が図られています。今後も継続的にVMWを支援することにより、母子保健が改善されることが期待されます。

必要な検診用具の具合をチェックする中村安秀専門家（医師）と村落助産師（写真：JICA）

※1　（出典）　国連死亡率推定に関する機関間グループ。
※2　VMW：Village Midwife